

## 文化記念・曾根臨海公園内スポーツ施設 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 9:00~10:20
- 2 場 所 ミクニワールドスタジアム北九州 会議室5
- 3 出席者 (検討会構成員) 植田構成員、内田構成員、河邊構成員、  
則松構成員、南構成員
- (事務局) 都市ブランド創造局 スポーツ振興課  
スポーツ施設担当課長、施設管理係長、  
担当職員

### 4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
  
- 応募団体(総合緑地建設株式会社)より提案概要に関してプレゼンテーション及び質疑応答
  - (構成員) 施設の有効活用に向けて様々な取り組みの提案があるが、スポーツ施設の設置目的は、個々の施設がスポーツの普及及び振興を図ることが義務的な目的になっている。そういう点について詳しく釣り堀やドックランの説明をしてほしい。
  - (応募団体) 釣り堀については、スポーツ振興ということよりも、食育につなげたいと考えている。魚のつかみ取りを行い、調理室で調理したものを自分たちでいただくといった食を通して生き物をいただくという学習に使っていきたいと考えている。  
また、スポーツ振興については、以前から取り組んでいる、テニス大会、グラウンドにおけるサッカー、ソフトボール、それから高齢者の方々には、ゲートボールやグランドゴルフを引き続き行っていく。  
釣り堀やドックランの自主事業は、若者の更なる利用者増に向けた取り組みであり、文化記念公園そのものの利用度を上げることで、スポーツ施設の利用も併せて増加につなげていけると考えている。
  - (構成員) 収支計画表では、貸農園の収入はマイナス計上であるが、その理由とマイナス計上であるにも関わらず実施される理由を教えてください。
  - (応募団体) 貸農園についても食育につなげることができると考えている。この自主事業については若年層ではなく、家族利用者の増加を目

的としている。

この事業を行うにあたって、畑、もしくは農園ができる状況を作る際に、初期投資はかなりかかると考えている。それから、器具の貸し出しや、肥料などの支出が多いためマイナス計上となっている。我々としてはこうした経験をしていただくということを目的としているため、利益よりも成果物をお持ち帰りいただく、もしくは作った方々による直売所の開設を公園内で考えている。

収支に関しては、貸し農園を3ヶ月、年間4クールで循環させ、一定収入を得られるのではと考えているため、5年計画にしたときに、プラスマイナスゼロになることを目標に行う予定である。

(構成員) 施設に猫を捨てに来る人がいるのか。

(応募団体) 捨て猫については、駐車場が無料の公園であるため、公園利用者が捨て猫に餌をあげている現状がある。捨て猫は、貸し農園を想定している場所を拠点にしているため、まずは保護猫に対応している方と連携を行い、避妊手術を進めていく。

貸農園を整備することで、猫の居場所なくし、子供を産んだり、逃げ込んだりできないようになればという意図もある。

(構成員) 今まで運営してきた中で、自信があることと今の施設が抱えている課題に対し、どのように取り組んでいこうと考えているか。

(応募団体) 我々はプールの水質に自信を持っており、たくさんの利用者から評価をいただいている。

一方で課題としては気温が高い日のプール水温であり、水中の中でも熱中症を起こすという現象があり、上がった水温を如何に下げていくかという問題に苦慮した。

また、前指定管理者の撤退の理由について、一番の問題は人員配置ではなかったかと考えている。我々が受託したあかつきには、地場産業である強みを生かし、今年度協力いただいた周辺の方々をプールの監視、受け付け業務で再度雇用し、自主的に管理運営ができるような体制を整える予定である。無理ない人員配置を行い、しっかり対応していけば、各懸念が払拭されると考えている。

(構成員) 自主事業について、文化記念に比べると曾根臨海運動場の事業数が少ないと思うが、曾根臨海運動場でどういうことができる可能性があるか教えてほしい。

次に広告宣伝費の部分で、支出が令和10年度から下がるようになっているが、こういった理由で下がるのかを教えてほしい。

(応募団体) 曾根臨海公園については、初めての取り組みということで、今までの曾根臨海運動場で行われてきた活動を調査し、我々であれば地域の企業や団体、それから小学校、中学校、高校に対して、運動会やスポーツ大会などの実施を提案できるのではないかと考えている。

次に広告宣伝費の経費が令和10年度から下がることについては、初期投資が数年かかるリスクがあり、少しずつ下がって

いくと考えている。

(構成員) 収支計画で、自主事業の支出がかなり抑え気味に計上されているが、特に釣り堀やドッグランが本当に運営できるのか。

(応募団体) 釣り堀については、かなりの初期投資がかかると思っている。生き物を飼育する事業で、最大の問題は施設だと考えている。文化記念公園には、長年使われてない飛び込み用プールがあり、これをベースに考えている。そこは、現在人が入れない状況であるため、転落防止柵やモニターを設置し、最初の1年から3年の間においては、係員が付き添いにて対応を行い、その後はモニターや緊急連絡ができるようなインターホン、マイク等を設置し、人件費を如何に下げていくかを考えていく。

ドッグランについては、立入禁止以外のところを使うため、経費をかける必要がなく、その時間だけをしっかり管理すれば可能と考えている。

(構成員) 調整をしていく上で釣り堀や、ドッグランの実施が難しくなった場合は、指定管理業務の円滑な運営には差し支えないか。

(応募団体) 多くの自主事業を織り込んでいるが、本業である管理運営とは別スタッフによる対応であるため、管理運営については一切負担がかからないように考えている。

○ 応募団体（総合緑地建設株式会社）退出後に各構成員が採点

○ 応募団体（ACE・マーク建設共同事業体）より提案概要に関してプレゼンテーション及び質疑応答

(構成員) プールを持つ施設は、オフシーズンにプール部分のスペースをどのように活用するのか、活用しないのかが難しいと思う。

アドベンチャープールでは、どういうことをやっているのか、また、文化記念プールではどうやっていきたいと考えているのか。

(応募団体) プール施設のオフシーズンについては、アドベンチャープールも含めて、基本的にプールの保護のために水を抜けないため、常に水が溜まっており、屋外での活用は難しい。準備期間含めて、6月から準備が始まって、片付けが終わる9月までは活用できない。10月から5月までの運用としては、プールをキャンプ場にある池のようにみなし、バーベキューを行ったりしている。

釣り堀は試験的に行ったが、管の中に魚が入らないようにする対策に手間がかかった。プールのオフシーズンの利活用は不可能に近いと感じている。

(構成員) 施設の合宿利用について、具体的にどのように考えているか。また、現在の施設の外から見た問題点をどのように考えているか。

(応募団体) 合宿利用の件は、曽根臨海運動場のグラウンドで練習した後、管理棟での宿泊を考えている。前提として、合宿は条例や防犯の面などで課題があることは理解している。

管理棟内は10人から20人ぐらい泊まれる広さがあり、施設内も築年数が浅く綺麗なため、布団をレンタルし宿泊していただくと考えている。入浴に関しては、近隣の曾根の湯という民間施設を利用していただく予定である。

食事については、曾根臨海公園付近は飲食店が多々あるため、そちらを利用していただくか、バーベキューの材料等を配達する事業者を外注し、公園内でバーベキューを考えている。しかし、現段階では公園内でのバーベキューは禁止されているため、課題はある。また、コンビニも近いことから、利用者側の不便はないと考えている。我々が受託したあかつきには、ACEが運営しているジュニアクラブで試験的に実施し、ビジネス展開したいと思っている。

施設の課題については、文化記念公園内施設の老朽化であると考えている。現地説明会において施設を確認したが、指定管理者が行う小規模修繕では手に負えない状況にあると感じた。また、地域密着型の施設は地域ルールが存在するため、きちんとしたルールを設けて、全ての人が利用しやすい施設にしたいと考えている。

曾根臨海運動場に関しては、現在、グラウンド利用者が管理棟内のトイレを使えないルールがあり、利用者から不評のようだが、使えない理由等を利用者へしっかり説明することが重要だと考えている。

(構成員) 今回、新たな指定管理をするにあたり、今までと最も差別化できるポイントがあるか。

(応募団体) 我々の一番の強みは、NPO法人であるということである。NPO法人は日常的に多くの団体と連携しており、利益を上げることが目的としていないため、利益を社会課題の解決に利用できる。そのため、自主事業の利益を施設運営に回すことが可能である。また、地域に関わっている職員が多く、地域目線のルールの明文化が可能である。

我々は、パラスポーツにも力を入れているため、いろいろな人に対して、幅広いアプローチも可能だと考えている。

(構成員) 文化記念プールは、元々大会仕様のプールであったが、2020年に桃園市民プールができたことから、今後の大会利用は難しいと思う。大会がない中で利用者数の増加に向けた具体的な提案があるか。

(応募団体) 文化記念は多くの会議室があるため、小規模な総合型クラブのような運営を想定している。現在、我々は、サッカー、野球、バスケ、ダンス、バドミントン、卓球などの主要種目は全て運営している。また、小学生向けのスポーツが好きになる教室といったコーディネーションタイプの教室も実施しているため、様々な教室を試験的に実施したいと考えている。また、高齢者の利用率は、

文化系の利用が多かったため、そういう方に健康運動指導士がワンポイントアドバイスをできるような窓口を月1回作ることを考えている。曾根臨海運動場に関しては、管理棟で公園利用者に対して健康相談をしたり、子供たちが多いため公園で使う遊具を貸してあげるサービスを実施したい。

パラスポーツに関しては、平成28年にスポーツ庁が特別支援学校等を活用した障害児者のスポーツ活動実践事業として行った、地域、大学、NPO、特別支援学校の4者が協力しながらスポーツ体験をする事業のようなインクルーシブスポーツをイメージしている。例えば、健常者がアイマスクをつけてサッカーを行うことや、知的障害がある方と一緒にランニングをするなど、楽しくみんなで運動することを想定している。

(構成員) 人員配置計画によると統括マネージャーはACEということだが、ACEはスポーツ以外も含めNPOとして独自の事業を多く展開しているが、そういう中で指定管理施設が増えることになった場合、責任を持って運営できる体制なのか、あるいは可能なのか。

(応募団体) 現在まで少数精鋭でやってきたが、施設を受託するにあたって正社員も増えており、警察や消防OBの協力も得ることができる。また、他施設のアルバイトを内部昇格で社員になってもらうことも考えている。現状、アルバイトは150人程おり、共同事業体のマーク建設の協力もあるため問題なく運営できる。

- 応募団体（ACE・マーク建設共同事業体）退出後に各構成員が採点
- 審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
- 審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
- 審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
- 審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

(構成員) 総合緑地建設は、施設管理については問題ないと思うが、スポーツ振興については弱い印象を受けた。スポーツ振興については、ACE・マーク建設共同事業体の提案の方が優れている印象であったが、具体性に欠けていたことから評価が低くなった。

なお、文化記念プールについては、大会利用がなくなっている状況において、何かいい提案があるかと期待したが、プールの在り方自体を変えることは指定管理者では難しい。神宮プールがフットサル場になったように、市において在り方を検討しても良い時期ではないかと思う。

(構成員) 利用者増に向けた取り組みは、総合緑地建設の方が魅力的な提案が多かった。スポーツ振興の面では ACE・マーク建設共同事業体の方がよく、どちらが良いかは迷うところであった。

総合緑地建設の方が具体的な提案であり、地域に寄り添った提案であると感じたので評価が高くなった。

(構成員) スポーツ振興という軸足から判断し、相対的に ACE・マーク建設共同事業体の評価を高くつけた。しかし、全体的にしっかりと着実に運営できそうなのは総合緑地建設の方だと思う。

ACE・マーク建設共同事業体の今まである地域独自のルールの打破は正論である一方で、地域との関わり合いという点では総合緑地建設の方が良い印象を受けた。しかしながら、総合緑地建設が自主事業として考えている釣り堀やドッグランが実現できるかは心配が残る。

(構成員) 総合緑地建設の評価が高かった理由として、これまでコツコツと地域との関わりを積み重ねてきた印象を受け、地元の方に愛されて、施設の存在意義をよく考えられていると感じた。また猫の問題などについてももしっかり考えられていていると感じた。

問題点としては、施設管理については、心配ないと思うが、スポーツに関する講座などの取り組みは工夫が必要である。

ACE・マーク建設共同事業体の提案は、自分たちがやりたいことを主張しているという印象である。それが地元の方々の年齢層などとマッチするのか疑問に思った。ただし、若年層の方々が施設を使う機会を増やす提案ではあると感じた。

(構成員) 提案書は ACE・マーク建設共同事業体の方が面白い提案が多いと感じていたが、ヒアリングの結果、総合緑地建設の方がどのように利用していくか、近隣住民の方とどのように関わっていくかというところに実直性を感じた。

ACE・マーク建設共同事業体の提案もスポーツ振興という大事なところで応援したいという印象を受けた。しかし提案の実現可能性の面で不安を感じた。

(構成員) 指定管理料の提案額の差について、事務局である市はどう考えているのか。

(事務局) 基本的には仕様発注ではなく性能発注であることから、金額の差が単純に直接的に評価に結びつくものではない。市としては、上限額の範囲内で、提案の中身がどのように積み上がっているかを評価していただきたい。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。